



し お か ぜ

令和3年3月19日発行 松岡弘悟

第74回卒業式 式辞

大森第一中学校第74期の皆さん、卒業おめでとうございます。

校庭の河津桜も貴方たちの門出を見守るように3月早々に咲き始め、本日のやわらかな春の日差しが旅立つ君たちの背中をそっと押してくれているような本日、第74回卒業証書授与式を挙行できることにこの上ない喜びと感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、ただいま一人ひとりに卒業証書を手渡しました。皆さんの表情の中にある希望に満ちた目の輝きとこの場、この時を大切にしていることが伝わる凛とした姿に、立派に中学校の全課程を修了した証をみることができました。受け取った卒業証書の意味するものは、君たちのこれまでのたゆまぬ努力だけでなく、支え、励まし、育ててくれた保護者・地域の方の深い愛情、さらには先生方をはじめ校内で生活を支えていただいた主事さん方の熱心な教えや導きの結晶であることを深く心に刻んでくれることを願っています。

本日の卒業式には、コロナ禍により来賓の臨席はありません。保護者の参列も制限させていただきました。しかし、本日、君たちの後ろには在校生代表が参列しています。「上級生が下級生の手本になる」という本校の校風を最後まで伝えきって旅立つことを期待しています。

さて、貴方たちは4月から、新たな環境で試行錯誤を繰り返しながら可能性を広げ、自分の道を歩いていくこととなります。

そんな貴方たちの門出に、はなむけの言葉を贈ります。

「為せば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

これは、上杉鷹山という江戸時代に、上杉謙信から続く名門と言われる上杉家の藩主となり、藩の財政改革を行った人の残した言葉です。

「為せば成る」は、一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

「できないのは、やろうとしていないからだ。」と厳しく言われているようにも感じます。「そんなこと言ったって」と言い訳をしたくなるような気持ちがするかもしれませんね。

でも私は、「できそうにないからとあきらめずに、まずはやってみること。」「行動しよう。」と解釈しています。貴方たちの活躍が期待される未来の社会は、変化が激しく予測が困難な時代になると言われています。「できそうもないことでも、その気になって取り組んでみる」、動き出すことで君たちの未来の扉は開かれると信じています。勇気をもって自分なりの一歩を踏み出せる人であってください。

未来への扉は叩いただけでは開かない

そこには自分だけにしかない鍵がある

その小さな鍵とは、ほんの少しの「勇気」と「知恵」

君たちは家族の希望の星 地域の期待の星

自分の力で未来の扉を開け

無限の可能性を信じて、輝かしい未来を切り拓き、自分らしく笑顔で活躍している君たちであることを期待して、式辞といたします。

令和3年3月19日

